

第3回彦根市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進協議会

日 時：令和3年(2021年)11月1日(月) 10:00～

場 所：市役所5階 5-1,5-2 会議室

○企画課長

本日は、お忙しい中、ご出席をいただきまして誠にありがとうございます。

ただいまから、第3回彦根市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進協議会を開催させていただきます。

申し遅れましたが、私、本日の司会を務めさせていただきます企画課長の馬場でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

協議会開会に先立ちまして、協議会委員の変更がございましたので、ご連絡いたします。

令和3年10月1日付の人事異動により、彦根金融協議会会長であり滋賀銀行彦根エリア統括店長の秋野浩一様が、御異動になられ、代わって本日は所用のため欠席されておりますが、福尾伸哉様が着任されましたので報告いたします。

また、本日は委員7名の内、会場に5名、オンラインで1名の参加であり、彦根市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進協議会設置要綱第6条第2項に規定する定足数を満たしており、会議が成立しますことをご報告申し上げます。

それでは、開会にあたりまして市長より一言ご挨拶を申し上げます。

○市長

皆さん、こんにちは。

本当に公私ご多用の中お集まり頂きまして、誠にありがとうございます。

第3回彦根市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進協議会開催にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

委員の皆様におかれましては、公私ご多用の中、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

さて皆様には、本日、第2期彦根市まち・ひと・しごと創生総合戦略人口ビジョンの改訂案について、それぞれの専門的知見から御意見を頂戴したいと考えております。

第1回推進協議会のご挨拶でも申し上げたことではございますが、私は、若い世代が出て行かず、移り住んでもらえる彦根市を目指したいということで、市民の信託を得てこの市長職に就かせて頂いたところでございますので、現行の人口ビジョンというのが、やはりもう人口減少が必然で、それを何とか緩やかにしていこうという内容であったと思いますが、私はできる限り子育て施策を充実させること、或いは彦根の魅力をより発信するとして、まずは出ていかない、そして、人口を増やす方向につなげていきたいと考えておりますので、今回この改訂をご提案させていただくものでございます。

日本全体が人口減少・少子高齢化が進んでおります。人口を増加させるということは至難の業ではございますが、何とかしてそれを実現していきたい、実際に守山市等では人口が増加するビジョンを示されておりますので、彦根市もしっかりと人口を増やしていくという方向に持っていきたいと思っております。そのためにも、ぜひ皆様のお力添えいただきながら実現に向けて取り組んでいきたいと考えております。

本日、皆さんから頂戴いたしましたご意見は総合戦略人口ビジョンに反映して参りたいと考えておりますので、ぜひ、率直なご意見、忌憚のないご意見等、ご指摘賜りますようお願い申し上げます。

以上、簡単ではございますが、協議会の開会にあたりましてのご挨拶とさせていただきます。本日はよろしくようお願い申し上げます。

○企画課長

ありがとうございました。

では、同要綱第5条第1項の規定に基づき、ここからの進行につきましては、廣川会長様に議長として進行をお願いしたいと思います。

それでは、議事の進行をどうぞよろしくお願いいたします。

○会長

改めまして、おはようございます。

皆様お忙しい中ご出席頂きまして本当にありがとうございます。

早速ですが、本日の議題(1)「第2期彦根市まち・ひと・しごと創生総合戦略人口ビジョンの改訂について」でございます。

事務局からご説明をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

○事務局

はい、事務局です。それでは、まち・ひと・しごと創生総合戦略人口ビジョンの改訂について説明いたします。

まず、今回の改訂の背景について説明させていただき、つづいて改訂(案)として具体的な改訂内容を説明させていただきます。

まず、改訂の背景についてですが、市長の挨拶にもありましたが、本年4月に執行された彦根市長選挙において和田市長が当選されました。新市長の就任に伴い、市政方針として「リセット」と「復活」を掲げ、財政確保の目途が立ち次第、中学校3年生までの医療費の無料化や小中学校給食の段階的無料化などの子育て支援策を実施することにより『若い世代が出て行かずに、さらに移り住んでもらえる市にしていく』を目指し、「彦根市総合計画」および「第2期彦根市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を始めとする各種計画に基づいて、各政策・施策に全力で取り組んでいくことで人口の増加を目指してまいります。

こうしたことから、現行のまち・ひと・しごと創生総合戦略人口ビジョンの目指すべき人口の将来展望の部分を見直すものであります。

続きまして、人口ビジョンの具体的な内容についてですが、資料1の第2期彦根市まち・ひと・しごと創生総合戦略人口ビジョン改訂(案)及び冊子になっています現行の人口ビジョンをご覧ください。

今回の改訂については45ページ以降の「めざすべき人口の将来展望」の部分となります。冊子の30ページから42ページまでの将来展望における調査分析があり、それを踏まえまして、44ページにはそれらを受けた将来人口推計の分析を記載しております。これらの部分と、新しい人口ビジョンの改訂案の45ページの上段に先ほど申し上げた背景部分の記載を追加しまして、めざすべき人口の将来展望へとつなげております。

45ページ以降、細かな文言の修正がありますが、全体を通して今回の改訂内容について説明いたします。

将来人口の推計については、合計特殊出生率(一人の女性が産む子どもの数の平均)と社会増減(転入転出の人数)を基に、国立社会保障・人口問題研究所の推計に準拠しまして割り出しているものです。

資料1の45ページの下の方をご覧ください。

出生数の展望とか社会条件の変更等を見ていただければと思いますが、合計特殊出生率について2030年までは、背景でも申し上げたとおり、財政の立て直し期間、施策実施するまでの期間として影響は少ないと考え現行の計画の数値のままとしております。

2040年に市内の希望出生率である1.78を上回る数値である1.95で設定しており、2050年には人口置換水準(長期的に考え人口が増減しない数値2.07)を超える値として、2.10を設定しその後は、その合計特殊出生率を維持していくことを計画しております。

続きまして、社会増減について説明いたします。先ほど申し上げたとおり、2025年までは財政立て直し期間、および施策実施するまでの期間として現行の計画の数値のままとしております。なお、社会増減については合計特殊出生率より施策実施後の効果が出るまでの期間は短いと考えられるため2025年以降、段階的に上振れを行っております。

具体的な内容としては、現在の計画から、0歳～45歳までの人口について2025年から2060年まで10年毎に増加幅を上げております。その中でも、20歳～24歳(大学卒業する世代)について、「若い世代が出ていかず、移り住んでもらえる市にしていく」といった市政方針もでてきていることから、重点的に増加をしております。

なお、2060年には転入増加375人として当初の計画から251人増としておりますが、最近の転入転出の状況から、平成30年には564人の転入増となっていることから実現可能な範囲ではないかと考えております。

以上のような上方修正を行ったことにより、45ページの下の方にあります2060年の目標人口は114,595人としているところです。

46ページ以降には人口、出生数、合計特殊出生率および、人口ピラミッドについてのグ

ラフの修正を行っております。以上により、46 ページの人口グラフからわかりますとおり、人口については微増となっております。

以上が人口ビジョン改訂の変更点となっております。

なお、人口ビジョンとは別に「彦根市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しておりますが、そちらに関しては令和 6 年 2024 年までの計画となっておりますので、この人口ビジョン改訂に関する基本目標の変更点はございません。

以上で目指すべき人口の将来展望の改訂内容の説明を終わります。よろしくお願いいたします。

○会長

ありがとうございました。

それでは、皆様、ご審議よろしくお願ひしたいと思ひます。ご質問、或いはご意見あれば、どのような観点からでも結構でございますので、よろしくお願ひします。いかがでしょうか。

従来的人口減が必然という形を何とか人口増に持っていけないかといった内容ですが、それについては行政としての施策等を加味し、どのような施策が効果的かということを考えながら、まちの賑わいを維持発展させていくといった市長の思ひが込められているのではないかと私は思っておりますが、いかがでしょうか。

世界的にみれば人口が増えていますけれども、日本としてはかなり減少傾向にあるということで、その地域の特性を生かして、子育て施策等すると子どもが増えたということになりますし、魅力的な場所があれば更に様々な地域から集まってくるということになるかと思ひます。いかがでしょうか。

○委員

目標設定ですので、内容としましては非常にいいと思ひます。

感想的なこととして意見を言わせていただきます。よく言われることですが、草津や南部の人口が伸びているというのは、やはりベッドタウン的な要素が強いと感じています。

しかし、他の地域の事例を見ても、小さな町でも多くの子育て世代が移り住んでおられるところもあります。そういうところを見ていて思うことは、子育てに非常に手厚い支援をされていること等、何らかの理由がありますので、地域にとっての将来像をどう考えていくかという時に、具体的に何をもって増やしていくのかということをお断りに強調していかないと、他の市でも同じ施策をやっている状況では人口の増加は厳しいと思ひます。それとネット社会になりましたので、ネットで何でも買える時代といった背景や、女性の社会進出により仕事に就かれている状況から、結婚年齢や出産年齢が高くなっていくという傾向の中で、出生率を増やすことは、一般論ですけど非常に難しいと思ひます。

国の長期ビジョンですと 2030 年に希望出生率が 1.8、2040 年に 2.07 の人口置換水準まで持っていくということで、だいたいそれに近い数字かなと思ひますので、頑張れば可

能かと見ております。

もう一つの要素は、彦根市のようにベッドタウンでないところで重要となってくるのは、働く場所、活動できる場所があるかどうかと利便性の問題、それからもう一つは住んでいて豊かさを感じられるかではないかと私は思っています。

そういう点も、先ほど申し上げたように人口を増やしていくための要素として、「総合計画」や「まち・ひと・しごと創生総合戦略」もそうですが、そのような計画の中にかに見える形で、発信できる形で盛り込んでいくかが重要になります。「彦根は子育てに手厚い都市だ」のようなことをアピールする等、地域の長所をアピールする等、そういうことのメリハリをつけて、計画に反映していく必要があるのではないかなと感じております。

○会長

ありがとうございます。

非常に重要なポイントをご指摘頂いたと思います、他にいかがでしょうか。

子育てに手厚いまちという観点では、教育もあれば、医療の関係もありますし、いろいろな関係があるかと思えます。

それと、私が思うのは、若者だけが集うまちではなくてお年寄りもいて、いろいろな世代と一緒にまちを作るとというのが比較的重要なのではないかと思います。若者だけで子育てしようとするとうハウがわからない等そういう問題があるので、お年寄りや子育てした経験者が、子育てしている世代にノウハウを教えたり、お年寄りが子どもたちを少し遠目で見守る安心安全なまちづくりをする等、どういうまちをつくっていくかということが非常に重要なポイントかなと思います。

ただ単に高層マンションをぼんと建てた場合、その時は人口増となりますが、継続的に持続可能なまちかというのと、ある世代だけが突出して人口が多くなり、時代が進むにつれてまた高齢化が進みますので、それでは持続可能は難しいかなと思います。

それと、ITが結構進んでいますので、毎日仕事に行かないといけない時代が続くのかという観点もあります。日経新聞によると、テレワークに適した都市で彦根市がトップになったこともありますし、テレワーク等が進んでくると週に1回ぐらい新幹線を使って東京へ行くというぐらいで、彦根で仕事ができることも考えれば、かなり魅力のあるまちではないかと思ったりもします。

自然がとても多いし、高い建物はないし、琵琶湖に行けば開放感を感じられる、素晴らしい景色が見られますし、四季折々の風景も大変素晴らしい。ですので、住むまちで、ゆっくり楽しく住めるまちかなと思います。

近くに仕事があれば、職住接近と昔言いましたが、それだけを目指すとか、テレワークも入ってくればそれも含めての仕事という形になるか、その辺も含めて、将来のまちの在り方をどういうふう設計していくかが非常に重要なポイントだと思いますが、ICTの関係だったらいかがですか。

○委員

やはりテレワークが新聞に採り上げられたこともありまして、そこは重点施策かなと思います。この資料を拝見していて、自然増減と社会増減というところで、自然増減というのはなかなかコントロールしづらいと思うので、やはり社会増減として地域の魅力を増やしていかないといけないと思います。

目標としてはいいと思いますが、自然増減のところが実現が難しいかなという感じを受けました。出来るだけ社会増減、つまり移住してくる施策、そこを強調された方がいいかなと思います。やはりその中身の根底はテレワークで戦略的に考えられていくべきだと思います。

○会長

ありがとうございました。社会増減とテレワークが非常に大きなポイントかなというご指摘です。

他にいかがでしょうか。

○委員

この計画につきまして、目標数値につきましてはこれでいいかと思います。

何が大事かと考えていたのですけれども、今、委員が社会増減とおっしゃっていましたが、やはり最初に市長のご挨拶にもありましたように、まず彦根市から出ていけないということが大事だと思います。その中で、福祉の制度があるとか、出生しやすい対策がある等を周知・PRすることによって、出ていけないまちに繋がると思います。そうすると若い人がずっと彦根に住み、そこで産んで育てることになりますと、段々人口も増加していくと思います。

もちろん転入をしていただく人たちにも、今後、対外的にPRしていく必要があると思いますけれども、まず今住んでいる人、ここで生まれた人がずっと彦根に住んでいただくということで、徐々に人口の方も増加していくかなと思います。

○会長

ありがとうございます。他の委員はいかがでしょうか。

○委員

私も転入することもそうですが、彦根から転出しないことが重要だと思います。

私はもう結婚して子どもがいるので、この会議がある前に弊社の未婚の若い男の子に居住について聞いたところ、彦根で家族と暮らす可能性はあるけれども、正直いずれは彦根から出たいということでした。このように市外、県外で家庭を持ちたいとなってしまうと、その方が転出後、お子さんを産んでも彦根市民が増えるわけではなく、そういう方が居続けた

いと思うか、もしくはパートナーの方を彦根に呼んでいただいてそこで家庭を築いてお子さんを産んでいただくことが必要で、そうなれば自然増も見込めるのかなと思います。だからといって何をしたら良いのかと言われるとわかりませんが、彼が言うには、昔に比べてネット等で買い物もできるので、都心に行かないと何も揃わないということではないけれども、やはり何かイベント等があった時に、都市部でないとイベント等にも参加しづらい、これは地理的な部分なので何とも難しいのかもしれませんが、そこに関しては不便を感じるということでした。あとは、交通の便の部分で、車文化だけでも、車の通勤等、移動に関してもどうしてもアクセスが集中してしまうような部分があったり不便を感じたり等の話がありましたので、何か参考になればと思っております。私個人としても、まずは、やはり「出ないこと」ではないかなと思っております。

○会長

ありがとうございます。他の委員はいかがでしょうか。

○委員

テレワークの普及により在宅で仕事をする方が増えてきましたが、やはり子育て中の方というのは、共働きの場合は育児に対して大変ストレスが増えますので、当然、保育の関係をもっと充実しないといけないと思います。今現在、彦根市の公の幼稚園・保育園は老朽化が進んでいるところもありますし、狭隘しているところもありますし、なかなか幼稚園・保育園を一つに「こども園」にしようと思っても、いろんな見えない壁があって、新しいこども園ができず、計画がうまく前に進んでいないという話が耳に入ってきています。

そういうところを考えたときに、いかに彦根に居続けていただくか、ましてやこのテレワークで、自宅で安心して安全に働ける、結果的に自己管理で勤務時間を管理しなさいと言われても、会社に出てデスクワークしてしまうというのが現実だと思います。

ではその時に子育ての部分である程度フォローしていただける部分があれば、お母さんやお父さんもやはり仕事に集中する、もしくは育児から解放される、メリハリがついて、地域でテレワークでも仕事ができるような社会環境を作っていけば、よそからも入ってきてもらえると思います。

例えば、ブルーカラーではなくてホワイトカラーの管理職の方は、リモートでできる仕事であれば、どこに勤務しているかに関わらず、彦根に持ってきていただくことなどが考えられます。そのように彦根に定着してもらうような企業へ「彦根はテレワークで仕事していただいても、それを守る環境を彦根市は整備します」というアピールをしていくことが重要です。もっとも彦根の方にとって、「住みやすい、育てやすい、仕事がしやすい」という、三方よしのような事をしていかないと、今まで落ち込んできているカーブを平行から上げて右肩上がりにするのは相当大変なものがあるというのが、普段、いろいろな方々が働いている環境を見ている中で、肌で感じているところです。

そこはやはりもう少し環境整備をしていただければと思います。

○会長

ありがとうございます。

今ほどのご意見を聞いて、他の委員から何か補足等ありますでしょうか。

○委員

先程以来、外から呼ぶのがありますが、出ていかないことも重要ということですが、現実として大学の卒業生の大半が県外に出ていっていますので、そこにはそれなりの理由があって、その方たちを引き留めるためには、受け皿をやはりきちんとしないといけないと思います。そこを整えて初めて地元に残ることが可能になりますので、そういう施策が要りますし、まだまだマインド段階ですが今、ベンチャー企業等に対する意識が高まっているので、その施策を具体的にしていくことで、地元に残る可能性もありますが、例えば彦根市がベンチャー企業等に手厚い都市だということがアピールできれば、そういったことを目指している県外の人も彦根に入ってくるという要素もありますので、そういった施策を打ち出していくことが大切だと思います。せっかく大学がありますので、具体的には先ほど申し上げたような要素もきちんと打ち出していくことが必要ではないかと思います。

もう一つは非常に気になるのがネットの良い面と難しい面ですけども、例えば彦根で、商店街を事例にしますと、非常に厳しい状況にある中で、観光は裾野が非常に広く経済効果が高いということですが、彦根に來られて或いは彦根で活動され、事業を行うなかで、彦根にどれだけお金が落ちて、それが循環しているのかという分析を経済的な側面からやっていると、非常にたくさん生産活動をやっているけれども、その過程で県外に全部流れていたり、ネットで皆その辺に流れているということになってくると、地域の中で循環していくお金というのは非常に少なくなります。どんどん経済が低下していくので、産業連関表とかそういう点もきちんと併せ持って計算していかないと、具体的な施策を打っていくことが必要ななと思っております。

○会長

ありがとうございます。

只今、いろいろなご意見ありましたが、彦根から出ていかないというのも一つだし、幾つかあると思います。生まれてずっと定住する方、或いは出て行ってUターンで戻ってくる方、或いは全然関係ないところから入ってくる方、その三つのパターンがあるかと思うので、それらすべて政策を作ってやるのか、或いはどこかに絞り込むのか、限られた財源の中でどうするのか、いろいろな力の入れ方があると思います。すべてをやったらそれなりに効果が出てくるかもわかりません。

テレワークと私も言いましたけども、確におっしゃるように、家の中で仕事していると

時間管理が難しい、或いは子どもさんがおられたら子どもの相手もしないといけないということがあるので、その辺がやはりすべてが解決できるのかという意味では、委員がおっしゃったように、やはり行政として子育て施策をするのか、総合的に施策を打っていないとなかなか一つだけですべてが解決するような話ではないということかなと思います。

人口ビジョンを改訂案のように増やしていくことについて、特に皆さんご異論ないということでしょうか。

異論なし

○会長

ありがとうございます。

それについてのいろんな方策・施策をどのように考えていくかというところを、皆様のいろいろなご意見を賜って、行政の方或いは事務局の方でまた更に練っていただいて、彦根らしさの施策というものを作っていただくことがいいかなと思いますが、もう少し何か皆さん方からいろいろな観点からご意見いただければと思いますが、いかがでしょうか。

○委員

社会増減でもどこから人が来るかという、どこに出ていくかということだと思いますが、やはり重点的にやるのは、テレワーク、アナログいろいろあると思いますが、都会に住んでいた人が来ていただくような施策が大事ではないかと思います。今現在おそらく彦根市民の流入出割合としては近くから来て遠くへ出ていくパターンでないかと思います。やはり都会へ出ていっているのではないかと思います。増えているのは近くから来ていると理解していますので、そこをやはりある意味では変化させずに、遠くからも来て頂くことが大事です。大学卒業後、都会へ出ていくのを止めるということはおそらく難しいのではないかと思うので、仕事の仕方を変えたいと思っている若い方々に来ていただけるような政策がいいのではないかと思います。

○会長

ありがとうございます。いかがでしょうか。

県立大学を例にとりますと、だいたい卒業生の3割が県内に残ります。年によって増減ありますが、ほとんどが京阪神、或いは中京です、京阪神から来ていた学生は一部が滋賀県の良さを理解して、滋賀県に残ってくれます。関東に行く学生は県立大学ではほとんどいません。

ですから、京阪神から来る学生或いは地方から来る学生に対してもっと滋賀県の良さを理解するところがあれば、更に残ってくれる可能性があるかなと思います。だから、働く場所をどのように見つけられるのか、大学としては、地元の企業をよく学生が理解してないと

ということで、地元の企業をいかに理解するために、或いは結びつけるかということ工夫しているところです。その辺を行政とタイアップして更に推進できれば、もう少し戻ってきてくれるか或いは他から入ってくれるかと思います。

彦根は非常にいいところだと思いますので、そこの良さが、学生だったらまだ子どももなく、結婚もしていない方が大半なので家庭を持つということを実感できないのだと思います。ですから、外へ出て家庭を持つ段階になって、どういうところに住んだらいいのかというのがやっとわかってくるというところで、もう少し早めに、一生をどういうふうに過ごすか或いは家庭を持ってどんな生活、どんなことをやりたいのか、子育てをどんなふうにするのか、その辺がもう少し若いうちからイメージできてくると、自分がどういうふう一生を送りたいかというのがわかってくると思います。

すべてがすべて都会に住んで過ごしたいと思っている人ばかりではないとは思いますが、東京へ行って狭いところで、若いときはいろんな繁華街へ出て楽しいかもしれませんが、家庭を持って子育てし出すとかなり大変ではないかなと思うので、その辺のイメージで考えると、また人生のステージによってUターンを考える世帯も出てくると思います。その時にうまく働く場所があれば繋がっていけると思います。

先ほど委員が言われたように、いかに働く場所や受け皿がきっちり準備できていけるかというのがポイントだと思います。いかがでしょうか。

○委員

繰り返しになりますが、テレワークがずっとキーワードで出ていますが、ただ現在のいろいろなデータを見ていますと、まだテレワークといっても多いのは首都圏や都市部の近郊何キロ圏とかにほとんど集中しています。というのは完全テレワークではなしに、週2回や週3回テレワークで、週に何回かは職場に行かないといけないということがあるので、現実問題、テレワークは非常に簡単ではないと思っています。ですから、そういう中で、「彦根でやりたい、やる理由」を打ち出していくときに、例えば世界遺産が目の前に見えてくると、或いは琵琶湖の活用も非常に可能性があるし、大学がこれだけあるし、利便性も非常に高いということで、可能性は非常に高いので、私は、人口増はもっといけると思います。

ですから、テレワーク単体でもって呼ぶのではなしに、そういう関係も含めたいろいろな面を合わせて打ち出していく等、良さをアピールして呼んでくるということで可能性は高まるのではと思っています。

よく話題になる空き家や町屋等もありますので、そういうものも併せてセットでお世話する等、学生さんが住むのかどうかということで活用を促していくということで、一つのことだけではなしに合わせ技でいろんなものを打ち出していくということがこれから求められていくということが、彦根の強みとして言えるのではないかと思います。

○会長

ありがとうございます。

ただ単に一つの切り口だけではなしに、住むところ、教育或いは子育てをどのように考えるのか、総合的に考えていくことが非常に重要なポイントかなと思います。

いかがでしょうか。何か補足ございますか。

○委員

先ほど言ったのと繰り返しになるのですが、委員が言われる通りテレワークだけということではないとは思いますが、ただ私が言いたかったことは、近隣の自治体との取り合いみたいなことではより広域的には発展がないので、例えば京都や大阪、名古屋等、そういうところからの移住みたいなものを進めていけるような方向で考えなくてはいけないということが言いたかったので、補足させて頂きました。

○会長

ありがとうございます。とにかく、どの辺から連れてくるか、外から入ってきてもらうかというのは、非常に重要で、近隣で取り合いしてもなかなかトータルの発展は難しいと思います。他にございますでしょうか。

多分、テレワーク一つとっても家が狭ければ非常に大変な仕事になるし、それなりに気分転換できる或いは住むところがしっかりしているということがテレワークでは重要かと、そういう意味では、彦根では空き家等で中を少しリフォームすればかなり住みやすい空間もできてくるだろうし、そういうことで、Iターン、京阪神なり関東に住む方に移住して頂く、その時には、住むところも或いは教育、子育て等も充実していますよというアピールをいかに発信していくかだと思います。

多分いろんなまちが同じようなことを考えるので、彦根だからという何を打ち出せるかが非常に重要だと思います。

どこに行っても同じような政策であれば、結局、多くお金を補充してくれる方に流れたりするかもわかりませんが、やはり財源にも限りがあるので、彦根ならではの魅力がどこにあるのかということが訴えられる或いは感じてもらえるというのがあれば一番いいと思います。

○市長

ありがとうございます。

今いただいた意見を非常に参考にさせていただきます。

ずっとお話しされているテレワーク、日本経済新聞で「テレワークに適した都市」というので全国1位をいただきましたので、早速「テレワークするなら彦根」ということでこれから進めていきたいと思っています。委員におっしゃっていただいたように空き家対策、世界遺

産推進と言っても天守閣だけではないので、江戸時代の統治機構ということで、例えば足軽屋敷群というのがあります。そこもまだまだ空き家で活用できるものがあるので、そのような魅力も紹介しながら、彦根にある町屋・空き家等をもっと紹介していくのはやはり彦根の魅力の一つで、そういったところでテレワークできますよと、大手企業に勤められるのではなくて個人事業主さん等が住んでいただけるような広さが確保できますし、例えば家賃面で、同じような雰囲気を持っている中ではやはり京都に住むよりはやりやすい等、物流のサポートができています等、或いは日本の中心にありますので、沖縄を除けば24時間以内で大体、全体的に配送できる物流の拠点にもなり得るとか、そういった部分の彦根の良さ等々をアピールして、「テレワークにふさわしい彦根」というのを進めていきたいですし、彦根城世界遺産推進と共に魅力の発信をして、移り住んでいただけるように取り組みたいと思います。

二点目は、これも委員がおっしゃっていただいたように、若い人が出ていかない、まずやはり雇用の問題です。

これもどうしても起業家の育成、私自身もゼロから今のビジネスを立ち上げていますので、そういった面でも何も資産等或いはそういうものがなくてもゼロからビジネス始めるというチャンスのある場をこれからも作っていききたいし、或いは一定資本があるのであればクラウドファンディングを使ったやり方等々進められる町というのを、これから研究してその助成がある、そして住んでもらうまちというものを作りたいと思います。

三点目は、これが私は一番大事だと思いますが、やはり彦根というのをものすごくしっかりとブランディングしたいと思っています。

もちろん何故彦根に住むかという理由になると思いますが、今進めているのは映画関連のことでいろいろ彦根に、特に若い世代に訴えられるような魅力的なまちをつくらうとしています。

今現在公開されている二つの映画が日本でロケされています。ハリウッド映画も含めあるということで、彦根をもっと若い人たちに魅力的なまちだと思ってもらえるようにしたいですし、世界遺産はもちろんそうですし、或いは、今、国スポ・障スポは令和7年にありますけど、あの競技場を何とかJリーグの1部リーグを持ってきたいという思いもありますので、若い人達にも移り住んでもらえるようなブランディングを進めたいと思っています。

また近隣市町と取り合いということではなく、今回の世界遺産についても、近隣の市町、長浜・米原だけではなくて、東近江・近江八幡とともにこれを進めて参っていますので、湖東圏域全体で、経済観光の推進をこれから進めて参りますので、この一帯が非常に優美なまちであると、自然を含めて移り住みやすいまちというのを進めることで、言い方難しいですけど、「ちょうどいいまち」という、何かに秀でているわけでは当然ないですし、財政的補助がすごく良いわけでもないけれども、トータルで人として生きていく、持続可能でやっていく、これから住んでいく、子どもと暮らしていくのに「ちょうどいいまち」というものを

目指していければと考えています。

私は、ほぼ半年前までビジネスマンでしたので、思うことはいっぱいありまして、彦根はやはり非常にポテンシャルは高いと思います。

ただ彦根城に頼り何もしてこなかったと、近隣を例に出すと長浜市は精力的に動かれ、曳山をやったり、お城を建てたり、盆梅展やったり等、黒壁もそうですが、町人文化であれだけの観光客を呼んでやっておられます。彦根はずっとお城があるがゆえに、ありがたい話ですけど、何も積極的な取組がなかったというのが私の意見です。ただ、まだまだポテンシャルがいろいろあります。ひこにゃん一つとってもまだまだ有効に活用できますし、更にこの彦根城世界遺産推進プラス、お城以外の歴史遺産、文化遺産、自然遺産等を有効活用して彦根のブランディングを図っていきたいと思います。

皆さんがおっしゃって頂いた通り、やはり、しっかり彦根で仕事をしてもらえないと駄目なので、特にこのテレワークで委員がおっしゃったように、テレワークをするというのはハード面の整備だけでは全然駄目で、生活するのにふさわしいというのは、やはり子育て支援を保育も含めた子育て支援ができているというアピールが非常に重要になってくると思います。いただいた意見を頂戴して、進めていきたいと思っています。

少し長くなってすみません。ありがとうございます。

○会長

非常に具体的なビジョンを示して頂きまして、ありがとうございます。

他に何か更にございましたらお伺いしたいと思いますが、他に何かございますでしょうか。

だいたい意見が出揃ったようでございますが、かなり時間的には余裕がまだありますけれども、市長の今のコメントについても何か質問ございましたら、お受けしたいと思います。いかがでしょうか。

意見なし

○会長

それでは、だいたい意見も出揃ったようでございますので、進行については以上とさせていただきます。

それでは、続きまして、議題(2) その他事務連絡等でございます。よろしく申し上げます。

○事務局

ありがとうございます。

今後のスケジュールに関しましてお話しさせていただきます。

本日の推進協議会で人口ビジョン改訂(案)を協議いただき、ありがとうございます。

人口ビジョン改訂（案）の内容を詰めていけましたので、これを今後12月から1月にかけてはパブリックコメントを行い、広く意見を聞き入れ、年明けの2月に議会への上程を行う予定をしております。

なお、人口ビジョンとは別に総合戦略の部分に関しましては、すでに行いました令和2年度のKPI評価および、今回の人口ビジョン改訂を受け、修正を行うこととしております。以上、事務局より説明を終わります。

○会長

ありがとうございました。

それでは進行を事務局にお返ししたいと思います。よろしくお願いします。

○事務局

会長、円滑な進行を誠にありがとうございました。

委員の皆様、本日はお忙しい中、本協議会にご出席いただきまして、誠にありがとうございました。

本日皆様からいただきましたご意見を基に第2期彦根市まち・ひと・しごと創生総合戦略人口ビジョンの改訂を進めていきたいと思っております。

先ほど市長からもありましたけれども、いろいろな角度から人口増加の取り組みを進めていけるよう、また予算編成もこれからまた市長初めてされるわけですが、そういった市長の公約を踏まえた取り組みを、財政も厳しい状況ではありますが、出来る限り盛り込んでいきたいと思っております。そういう意味でも市を挙げて全力で取り組ませて頂きたいと思っております。

それでは、皆様、本当にありがとうございました。これで終わらせて頂きます。本日は誠にありがとうございました。

終了